

修了者代表挨拶

2022.09.24

本日はお忙しい中、我々修了生のために諸先生方のご臨席を賜り、学位授与式を挙げていただき、誠にありがとうございます。修了生一同、心より感謝し御礼を申し上げます。また、只今も國分克彦(こくぶかつひこ)研究科長より温かい激励の言葉をいただきましたこと、重ねて御礼申し上げます。

これに加え、COVID-19 感染予防に配慮しながらも、MBA 運営に陰日向となり支えていただきました教務の方々や、学びの場を護ってくださった皆様、学業と仕事の両立をご理解いただき、様々な支援をいただいた家族を始めすべての方々に感謝の意を表します。本当にありがとうございました。

いよいよ修了という時を迎えました今日、私たち一人一人の胸中には様々な思いが去来していることでしょう。

一年半前、様々な思いを胸に我々はこの学舎に集まりました。今の自分に満足できない者、葛藤や義憤を抱えている者、何かにチャレンジしようとしている者、夢を持っている者、何かをつかみたいと期待している者、その思いは様々でした。

実業界に生きる我々は、いろいろなモノ・コトをいつも感じ取っています。現実の世の中では、大抵の努力は報われません。がんばっても意味はない。夢など持ち続けても叶うことはない。たいていのチャレンジは失敗する。そして人は弱いから、時に醜く、残酷です。そんなこと、現実の世界では当たり前のことなのです。

でも、だからって、チャレンジしないわけではないだろう。だってどうしてもそれがやりたい、やらないわけにはいかない「魂の命題」を、我々一人一人が既に抱えている。だから、ここに来たのだ。

でも、命題が何かなんてわかってはいない。それが正解なのかどうかなど分かりはしない、分かった時にはもう手遅れだ。だから実業界で生きる我々は常に、その場その場で精いっぱい生き、精いっぱいの知恵と工夫で、必死に切り抜け、その技を身に着ける。命題を根源に生きる我々一人一人は、既に生きる仮説であり、一つのコンセプトですらある。我々こそが真のクリエイターなのだ。

この1年半の神戸大学 MBA で、我々は新しく二つの武器を手に入れた。一つはアカデミアの知見であり、もう一つは67人の同志である。

アカデミアは、我々に「考えるための考え方」を示してくれた。近視眼的で精いっぱいな我々に他の世界を見せてくれた。カブトムシの私は、世界中のカブトムシを意識してやって

きた。もちろん蝶やミズカマキリが居ることは知っていた。でもそんなにも違う世界で、そんなにも違う戦いをしているとは知らなかった。そうか、その上で私はカブトムシなんだな。大学の先生方は昆虫採集が上手で、うまく標本を並べて見せてくる。カブトムシって、そういう風に見られてるのね。あらま、ひどい。甲虫っていう分類は知っているよ、聞いたことはあるから。でもさ、私とナナフシはやっぱりちがうと思うんだよね、甲虫ってくくりが不適當なんじゃない？なんていう素人議論に先生方は付き合ってください。

そうなると毎週の重いレポートも楽しくなった。オリジナリティの追求と、求められている課題の習得度を示すという要求の間でギリギリのせめぎあい。失敗すると C 評価、成功すると S 評価だった。でも、無難なレポートなど書くものか、それが私の命題なのだ。もちろん、他の命題を抱える生徒もいた。レポートの参考書籍はべ切当日の朝に読み、決まって提出はべ切ギリギリ 1 分前。それも仕方がない、ここにはきっと彼女の抱える命題があり、生きるコンセプトが潜んでいる。私の目に見える可視光や触れて感じるものが、全てではないのだから。

ここでちょっと、お世話になった先生方への感謝を込めて、修了者各位からヒアリングした各教科の学びを少しだけ。

- ・Sales & Marketing では、基盤としてのマーケティング 4 P の有力さとべ切時間の無常さを知りました。

- ・Tech. Operation Management では、プロセスを見直すことでイノベーションが起こせるという気づきと、ドライベリはもう一度乾かしてはならないことを知り

- ・マーケティングリサーチでは、低まるか高まるかの厳密な相関関係で解く、連立方程式のような統計処理の面白さと、ちょっと変わった結婚観を見て

- ・Individual & Group では、集団浅慮はあながち組織というものの必要悪なのではないか、という疑問と、スペースシャトルのシールがゴムで毎回切れても飛んでいたという、とってもアメリカンな事実と

- ・ケースプロジェクトでは、バックグラウンドが異なる仲間との協調作業で、家具だけにソファを飛び越えるような発想とやり切った後に昼から飲む祝杯のうまさを

- ・テーマプロジェクトでは、「問い」というものが全ての本質的な価値であることと、参照した企業業績が悪いと最初から 1 点確定になる残酷さを

- ・ファイナンス応用研究では、リスクとは振れ幅であることと、完璧なラップタイム管理は授業運営のモチベーションになりうることを

- ・Controlling & Reporting では、「だいたい」で捉える方が、返って本質に近づける会計の器の大きさを、

- ・経営倫理では、無限責任の実行って我々がやってることじゃないか、という自己肯定感を

- ・Strategy では、理論と事象で誰もが納得しやすい戦略が作れることと、「強み伝いなのか、ジャンプするのか、それが戦略の強さを証明する」という加護野先生の金言を、

学びました。

先生方お一人お一人の魅力的なキャラクターと、各教科で得られた「考えるための考え方」を大切にしていきます。また、何かあったらご相談してもいいですか？

そして、二つ目の武器。一年半、ともに学び、考え、議論とビールを交わした我々は2021年入学の神戸大MBA生、同期という枠組みは一生、いやあの世へ行っても変わらない。蝶やカブトムシやハサミムシ、蜘蛛やミズカマキリもいてみんなバラバラなのにどうやら同類らしい。違う種なのに、同じ類(たぐい)の仲間を手に入れて、我々は引きつづきその実業界で生きていく。仕事しながら、わざわざMBAに通う虫って、先生、どう分類されるんでしょうか。

相変わらず、先は見通せない世界である。上等だ。地球温暖化、カーボンニュートラルね。米中デカップリングか、少子高齢化、ジェンダー、食料問題もある。GAFANE。エネルギー問題も。え、終身雇用制度か、まあ、いいさ。やってやるよ。どうせ結果が分かった時には、もう手遅れなんだろう？だったら、この自分の命題をエンジンに変えて、仮説を立てて立証してやろうじゃないか。そうだよな、みんな。だから少しでも「あれ？そうかもしれない」って思ったら一歩だけでも踏み出そう。今や我々の手には新しい二つの武器がある。これまでの徒手空拳よりはずっとマシさ。

いざとなったら、その武器を使え！そして持てるエネルギーを、自分のエンジンで燃やせ、頭を使え！自分という存在の仮説を、自分というコンセプトのすばらしさを、世間に立証してやろう。そして、もしもう燃やすエネルギーがなくなったら、もう一度、この一年半を思い出して、その「心を燃やせ！」。少なくとも、あなたには時に優しく、時に厳しい67人の同志がいるのだから。その意思ある行動と情熱で、未来を変えよう。今を変えよう。今、もしここに我々の住まう場所がないのなら、時の中に生きよう。だって未来だけは変えられるのだから。だから、そう我々の細胞はミトコンドリアとDNA、そして夢とロマンで出来ている。未だ目に見えないモノで出来ている。

最後になりましたが、この素晴らしい出会いと学びの場を与えてくださった、神戸大学MBA、経営学研究科の今後の輝かしい発展と皆さまのご多幸を祈念しつつ、修了生代表のあいさつと代えさせていただきます。

そう私は、神戸大MBAが大好きだ。だって、神戸大MBAよ、あなたも命題を抱えて歩んでいるのだから。では未来で会おう。いざ、サラバ。

令和4年9月24日

修了生代表 松田義基(まつだよしもと)